

## 使いたくない言葉「だめ」「はやく」「だいじょうぶ？」

「だめ」「はやく」「だいじょうぶ？」と聞くと、毎日何回も言っている言葉だと答える方がほとんどではないでしょうか。尾木ママこと尾木直樹さんは、これらの言葉を使う場面は、親子の絆を深めるチャンスであることが多いので、以下のことに気を付けてみてくださいと言われていました。

「だめ」と言う場面は、子どもが積み木で遊んでいたら、積み木を口の中に入れようとしてしまいました。お母さんは、子どもに向かって「だめ」と言いました。子どもは積み木を口から出しました。このような場面、「だめ」と言ってしまいますよね。でも、この「だめ」は、他の場面でも使ってしまう。近所のお子さんと公園の砂場で一緒に遊んでいたら、その子が持っていたスコップのおもちゃを奪い取ろうとしたので、「だめ」と言うと、奪い取ることをやめました。やめたからよかったのではなく、なぜ「だめ」と言われたのか分からないままになってしまいます。例えば、「お友だちのスコップだから、取ってしまうとお友だちが遊べなくなるよね。今日は、お母さんと一緒にトンネルを作って遊ぼうよ。」と、理由と代替案を提案してはどうでしょう。

「はやく」という場面は、毎朝、「はやくご飯食べて。」「はやくしたくして。」「はやく靴をはいて。」と言ってしまいますよね。なかなか靴を履かなかったとき、「はやく」と言うのではなく、なぜ靴を履かないのだろうとお子さんをよく観察してみてください。ご飯を食べないのは、何かに気を取られているからなのか、食べにくい食べ物なのか、そのことを取り除いてやらないといけないのかもしれないかもしれません。わが子の様子をしっかりと観察して、大人がちょっと工夫をしてあげられると、「はやく」と言う回数が減ると思います。

「だいじょうぶ？」は、体調の悪そうな子に「だいじょうぶ？」と聞くと、大丈夫でなくても「だいじょうぶ」と答えてしまいます。大丈夫なら保健室には来ていないはず。もし言葉をかけるなら、「私にできることがあったら言ってね。」と、具体的に助けてあげられることを話すようにすると、相手が話しやすくなります。

子どもへの言葉かけは、親子の絆を深めるチャンス、そんな風に意識できたら、かける言葉も変わっていきます。子どもへかける言葉によって、子どもは私のことをよく理解してくれていると、安心感をもちます。安心感をもちた子どもは、自己肯定感が高くなり、自分から行動する意欲的な子どもに育ちます。加えて、子どもへのありがとうの気持ちも忘れないようにしていきたいですね。